

ひとの感情を予測する



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 教授

川島 尊之 Kawashima Takayuki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

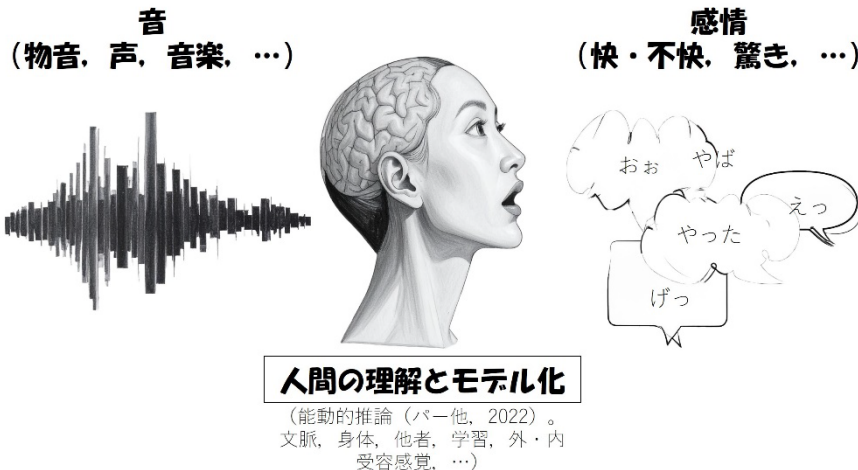
キーワード : 感情・聴覚・視線・心理物理学



研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう



ひとの感情や気分は体の内外の様々な情報と関わっていると考えられていますが、音はそうした情報のひとつでしょう。例えば後ろのほうで人の叫び声が聞こえたとき私たちは驚き、ときには振り返るなどして視線を向けるかもしれません。あるいはスーパーマーケットで流れる音楽が人の感情と購買行動に影響することはしばしば報告されてきました。

私は人の声、音楽や日常的な物音など、音が人間に喚起する快、不快などの感情と、それに伴う人間の行動について研究しています。特に人間がどのような音をどのように感じているかについて、実験や観察から理解すること（データを得ること）、そして、データと同様の応答を示し、予測するモデル（能動的推論に基づくものと、音の時間波形の情報を入力とする深層学習によるニューラルネットワーク）を作成することを研究の目的としています。

私の研究では、人間と音との位置関係や聞く人の視線、身体の方角など、これまで見落とされてきた要因をモデルに含めることで、音が喚起する感情についてより正確に予測することを目指しています。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

快適さ、興奮・覚醒、あるいは不快さなど聞く人の感情を意識した音環境を構成するために、（香り等音以外の要素を含める）トータルな人間の感情面の予測、評価システムへの組み込みのために有用と想像できます。例えば、病院等の待合室などで、快感情につながりやすく、心理的な苦しさやいらだちを和らげる可能性が高い環境音、音楽の選定・作成に有用な可能性があります。同様に販売店の売り場、待合室などで利用するバックグラウンドミュージックが、聞いている人の感情に与える影響を予測、検討するために利用できる可能性があります。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【科研費】基盤研究（C）「感情処理過程における前後の異方性の分析」

【単著】・「位置の前後の違いと聴覚的な感情処理過程」

・「日常的な音に対する感情面での評価と音源位置の関係」